

C.S. 2017年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

私の大学時代は、他大学に通う友人や就職した友人から「菅原のSNSが一番楽しそう」と言われるぐらいには充実していたと自負しています。

北九州市出身で高校までサッカーに明け暮れた私は、将来はサッカーに関わる職に就きたいと考え、「スポーツや社会学に関する分野を実践的に学べる場所」に進学を希望していました。当初は関西方面への進学を考えていましたが、経済的に厳しく、進学先を悩んでいた矢先に見つけたのが、「実践での生きた学び」に特化した地域創生学群でした。

地元である小倉のまちでの実習活動、成人式の実行委員や大学連携施設の歓迎イベント実行委員長など多様かつ唯一無二の経験を積んだ4年間でした。

いずれも、自分がやってみたくと思ったことであり、特にチャレンジプログラムの一環で参加したプロサッカーチームギラヴァンツ北九州での長期インターンは貴重な経験でした。

地域にチームが根付くための「ホームタウン活動」を担当する部署に所属し、平日はチームで行う企画の準備や調整、土日はホームゲームの運営、試合がない日は地域の行事やお祭りに参加するなど、地域のシンボルを目指すプロスポーツチームの地道な活動を直に学びました。週2～4日はフルタイムでインターン、残りの2～3日で授業とアルバイトの多忙な期間でしたが、入学前から志していた仕事を体験できたことは、自分のキャリアの基盤を作り上げた期間でした。

インターンをはじめとした多くの挑戦を経て、私は「身近な誰かのために仕事をしたい」ということが自覚でき、現在にもつながっています。

このような学生生活が実現できたのは、地創の土壤があったからだと思います。「他者のやりたいことを尊重し、自分のやるべきことをしっかりやる」ということが地創の学生間で共通認識としてあったため、誰かの挑戦を応援する土壤ができていました。

私の学生生活は、地域創生学群以外ではできなかった4年間でした。



ギラヴァンツ北九州での長期インターンでの一枚。自主企画として、試合のハーフタイムに子ども用のストライダーという乗り物でのレースを行う企画をしました。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

卒業後は、北九州市役所に入職し、2025年度で9年目を迎えます。

生活保護→福岡県警察出向→防犯（性犯罪対策や暴力団対策）→保健所と多様な業務を経験してきました。今年の4月に異動して、現在は、観光関連の部署から九州朝日放送株式会社（KBC）へ出向し、報道記者や自治体と連携した魅力発信の部署での業務などに従事しています。今まで、社会課題に向き合う業務を多く経験してきた一方で、市のPRや長所の促進といった仕事は初めてです。加えて、テレビ局という今までとは全く異なる文化の組織での仕事は、毎日が勉強で刺激的です。

今の年齢で出向を2度経験している職員は、今の組織ではおそらく私だけであり、自他ともに認めるユニークなキャリアの持ち主だと自負しています。

30代に入り、自分自身の今後のビジョンについてはまさに思案の真っ最中で、悩んでおります。できることが増えて、やるべきことも増えて、やりたいことも増えて…これまでは「全てやる」という考えで生きてきましたが、これからは「取捨選択」が必要なことを日々実感しています。

今の仕事を続けるのか、新たな道に行くのか、いずれにしても「身近な誰かのために働く」という根底は忘れることなく、地元北九州を愛する人たちのために何ができるかを悩みながら取り組んでいきたいと考えています。



取材の一環で、国産ウナギと中国産ウナギの食べ比べの食リポを経験しました。映像で伝わる情報と言葉にしないと伝わらない情報があり、大苦戦しました。

現役生へのメッセージ

なんでも挑戦してください。自分が直接得た経験を増やしてください。

現代は多くの情報がSNSやAIを介して得られます。だからこそ、自分自身で真偽を判断できるかが重要です。その能力を鍛えるためには自分で多くの経験を積むしかありません。

ガクチカは何でもいいです。学生だからこそ挑戦できることはたくさんあります。

失敗していいです。自分でやった経験にこそ価値があります。必ず応援します。